

ゆ〜とぴー

vol.66
2024

福祉の総合情報誌
utopie 理想をチカラに

特集

地域に開かれた子育ての拠点について



②—— 子どもたちにとって必要な場所が地域にとっても必要とされるよう、アクションを起こしていきたい
○社会福祉法人 まどか会

⑥—— 社協活動クローズアップ「嘉島町社協×嘉島 だんだん食堂」
○社会福祉法人 嘉島町社会福祉協議会 ○一般社団法人 ハンズハンズくまもと

⑩—— 県社協のおトクな制度に加入しませんか？

⑫—— 県社協の事業案内

近年、子どもの貧困や児童虐待、不登校やいじめ等の相談対応件数は増加し、子どもを取り巻く社会環境は厳しい状況となっています。令和5年4月、こども家庭庁が設置されると同時に「こども基本法」が施行。この法律は、すべての子どもや若者が自分らしく成長し、幸せな生活を送ることができる社会を目指しており、現在、国や都道府県、市区町村では子どもを中心に据えた「こどもまんなか社会」の政策を推進しています。熊本県内において、以前から子どもを主体とした取り組みを地域とともに行ってきた社会福祉法人まどか会に、子どもの健やかな成長を守る地域の拠点づくりのヒントを聞きました。



子どもたちにとって必要な場所が
地域にとっても必要とされるよう、
アクションを起こしていきたい。

社会福祉法人 まどか会
理事長 三村 大和さん

自治体に求められる
「こどもまんなか」施策

令和5年4月に施行された「こども基本法」に則って、国は子ども施策を総合的に推進するため、「こども施策に関する大綱」（以下、こども大綱）を定めました。都道府県や市町村は、こども大綱に基づき、それぞれの地域にあった施策を検討、実施する努力義務が課せられています。熊本県では、令和5年5月「こどもまんなか応援サポーター」に県知事が就任。庁内に「こどもまんなか熊本」推進本部を設置し、子どもや若者、子育て当事者の視点に立ち、その最善の利益を第一に考えた取り組みを実施するとしています。現在、施策の総合的かつ計画的な推進に関し調査審議等を行う「熊本県子ども・子育て会議」の開催や、子ども・若者、子育て世代や、保育・教育の現場で働く人の意見を聞く「こども未来創造会議」等を実施し、令和6年度中に「こどもまんなか熊本・実現計画」を決定する予定です。

長年にわたり地域とともに
子どもたちの成長を支援

「こどもまんなか社会」の実現に向けては、地域社会が一体となって取り組まなければなりません。社会福祉法人として、長年地域と密着しながら子どもの成長の見守りや子育て世帯の支援に取り組んできたのが、阿蘇市に本部を置く社会福祉法人まどか会です。現在、阿蘇市と菊池郡大津町で、1つの保育所と2つの幼保連携型認定こども園を運営。阿蘇市では放課後児童クラブ（以下、学童保育）を行い、子どもたちの居場所づくりに取り組むほか、子ども食堂を実施するなど子育て世代の支援にも力を注いでいます。

まどか会は浄土真宗本願寺に属する「圓滿寺」が母体。住職の三村静雲氏が、農閑期に出稼ぎをする家族に代わり地域の子どもたちを寺院で預かっていたことから始まり、昭和37年に私立の古城保育園を設立しました。昭和63年に社会福祉法人となり、当時から今に至るまで、仏教の教えによって心豊かな子どもたちの成長を支え、見守り



△国の動き▽

令和5年	令和6年
4月	5月

・こども家庭庁設置
 ・「こども基本法」施行
 ・「こども大綱」、「子ども未来戦略」等閣議決定
 ・「こどもまんなか実行計画2024」の策定に向けて意見取りまとめ



△熊本県の動き▽

令和5年	令和6年
5月	9月、10月、11月

・「こどもまんなか応援サポーター」に県知事就任
 ・「こどもまんなか熊本」プロジェクトチーム、「こどもまんなか応援団」設立
 ・「こどもまんなか熊本」推進本部設置
 ・「こどもまんなか熊本」推進本部会議開催
 ・「熊本県子ども・子育て会議」開催
 ・「こども未来創造会議」開催

都道府県は、こども大綱を勘案した都道府県こども計画を作成すること、また、各市町村はこども大綱と都道府県こども計画を勘案した市町村子ども計画を作成することが努力義務となつていきます。

熊本県では、こども・若者がキラキラ輝き、県民が家庭や子育てに夢を持てる「こどもまんなか熊本」を実現するための基本的な方針、重要事項等を示す「こどもまんなか熊本・実現計画」の策定を進めています。

続けています。平成24年には阿蘇市の保育所民間化計画を受け、宮地保育園の運営を開始。平成29年には古城保育園を幼保連携型認定こども園（以下、認定こども園）へ移行し、令和6年4月からは、大津町からの民間移管を受けて、大津幼稚園を認定こども園として経営しています。

就学後の子どもたちの居場所や大人と関わる機会を創出

古城保育園の運営を行う中で、平成10年には保育園独自で学童保育をスタートしました。「何かをやるなら最初にしよう」という父の考えで始めた学童保育ですが、当時としては前例がなかったため、小学校の先生からは『家に祖父母がいるのに、どうして児童が学童保育に行かなければいけないのか』と面と向かって言われていましたね」と、理事長の三村さんは振り返ります。おやつ作りをしたり、和太鼓を練習して地域の夏祭りや演奏したりなど、学童保育でも子どもが楽しめる時間を大切にしています。

平成28年に阿蘇市の3校が統合し一の宮小学校が開校したことにより、「一の宮まどか学童クラブ」の運営をスタートしました。小学校に隣接していることもあり、「子どもたちが学校を出て最初に帰ってくる場所が、苦痛であってはいけない。

安心して過ごせる場所であるよう、取り組んでいます」と話すのは、学童保育の主任を務める藤井さん。午前中は保育士として保育園に勤務し、午後は学童保育を担当しています。取材で訪れた日は学校の下校時間が早く、宿題を終えた子どもたちが自ら、おやつのおにぎりを作って食べていました。「時間があるときにはできる限り自分達でおやつを作るなど、楽しい時間を作るようにしています」。

長期休暇期間には120人ほどの利用がある学童保育。夏休みには阿蘇の大自然とふれあう体験活動として、延べ5日間にわたり人数を分けて川のぼり体験を行っています。「普段の学童保育では、小学校の先生だった方や民生委員の方などがスタッフとして子どもたちを見守ってくれています。子どもたちの声や権利を守りながら問題が解決するよう努めています。「学校にはなじめないけど、学童保育が楽しみだから学校をがんばる」と話す子どももいるなど、まどか会の学童保育は、子どもたちが安心して過ごせる場所となっています。



●保育の様子

浄土真宗の教えに基づいた「まどかの保育」を実践。一人ひとりが大切にされる仏教保育を基本に、子どもたちの心豊かな成長を育む。



●学童の様子

学童保育では、時間がある時には自分たちでおやつを手づくりする。自分の好きなようにおむすびを握り、みんなで食べる時間は楽しいひと時。



●子ども食堂の様子

取材に訪れた日の子ども食堂は、「生活困窮者に対する物価高騰緊急支援事業」として地元企業と協力し、県や他企業から支援・提供された食品を配布。

地域と連携した子どもの拠点づくりの取り組み事例

●子ども食堂

電話やインターネットでの事前予約制で、手づくり弁当の無償配布や、NPO法人ひのくにスマイルプロジェクトのフードバンクや企業からの商品提供によるフードドライブを実施。まどか会の取り組みにより、地元農家や地元企業からの寄付など、支援の輪が広がっている。



左／民生委員・児童委員、地域住民の協力を得て、100食ほどの弁当を用意。右／地元企業等から提供される不動産在庫となった食品を配布

●学童保育

阿蘇市が市内5ヶ所に設置する学童保育の内「一の宮まどか学童クラブ」を運営。専任の支援員を10名配置し、放課後の子どもたちの学習や遊びの場を提供している。長期休暇期間には阿蘇の大自然とふれあう体験活動を行い、地域の自然や文化を守り続ける大切さを伝えている。



左／学童保育で使用する広間とホールの間には、大人数が苦手な児童が落ち着いて学習したり遊んだりして過ごせるスペースを設置。右／約2時間かけて滝を目指す夏休みの体験活動の様子

地域との結びつきを深める 子ども食堂の取り組み

まどか会では、令和5年から子ども食堂「地域まるく食堂」を開始しました。そのきっかけは、兵庫県神戸市で子ども食堂やフードバンクの活動を行っているNPO法人神戸こども食堂ネットワークの小野田悦子さんとの出会いでした。熊本地震の時に防災頭巾を届けてくれた縁から、お礼を兼ねて神戸を訪れ、小野田さんの活動を見学した三村さん。熊本と同じく大きな震災を経験した神戸市ですが、まだ全面的に復興していない状況や、だからこそ子どもたち誰もが行ける場所としてずっと支援を続けているという姿を見て、熊本でも取り組みたいと決意。「困っている方の状況が見えにくいからこそ、広く受け入れる必要があることに気がつきました。長く支援していくことで、子どもや保護者が抱える見えない問題が、見えてくるきっかけにもなると思います」。地元農家や企業からの寄付やフードバンクを利用して食材を集め、事前予約制で毎月1回手作り弁当を無償配布しています。（令和6年10月現在、施設建て替えのため休止中）

「私たちは保育園を運営する一人ではありませんが、何かやり出せば、地域の方や民生委員の方が声をかけてくれ、協力してくれます。人の善意、地域の想いを込めて作ったおいしい食事を提供することで、食べる人の心も作る人の心も豊かにしているように思います」。そんな三村さんの想いや行動は、支援者、協力者を増やしています。

保育士がやりがいと誇りを持って 働き続けられる場を模索

これまで紹介してきたまどか会の活動を日々支えているのは、まどか会で働く職員、保育士たちです。全国的にも課題となっている保育士不足は、阿蘇地域でも喫緊の課題。「新人の保育士がそろそろ一人前になるところで、『一人暮らしをするので辞めます』と市街地にある保育所へ転職してしまうことがあります。ベテランの保育士でも結婚による転居で通えなくなることもあります。阿蘇市よりも熊本市に近い大津町に保育園があるといいなと、ずっと思っていました」と話す三村さん。冒頭で述べた大津町幼稚園の民営移管に手を挙げたのには、保育士の離職を防ぐことへの期待もあつたそう。「大津町は今後さらに人口増加が予想されています。私たちが阿蘇市で行ってきた保育や地域との連携を、大津町に合わせカタチを変えながら実践していくことで、『大津幼稚園がこの地域にとって必要だ』という存在になれるようにしていきたいですね」。

また、将来の保育士育成に向けては、近隣の中学生や高校生を対象に保育園での職場体験実習を積極的に実施。さらに、阿蘇市教育委員会からの依頼で、小学校で働く先生の「小中学校初任者研修」を引き受けています。「小学校では35人の児童に対して先生は1人。保育園では年齢に応じて子ども3人に保育士1人、6人に1人、15人に1人」とか段階があるんですよ。子どもにも

— 子ども施策に向けた —

まどか会

×

地域

連携のメリット例

● 家族以外の大人との繋がりが

保育園や幼稚園での活動を通じて、地域の大人たちが自然と子どもとの関わりを持つことができる。家族以外の魅力ある大人との交流は、子どもたちの心の成長にも良い影響に。

● 阿蘇の大自然に触れる体験活動

学童保育での夏の川のぼり体験や、地元農家の厚意で体験するトマトやスイカの収穫体験など、四季折々の自然体験は、子どもたちの郷土愛を養い、地域を大切にすることを育む。

● 活動による地域の支援の活性化

子ども食堂等の運営で、地元農家や企業が食材を提供するなどの支援が活発化。地域住民が子育てで支援に貢献する結果となり、子どもを見守る地域の意識が高まる。

● 子どもが安心できる居場所

学童保育や子ども食堂を行うことで、地域全体で子どもを見守る環境が醸成される。子どもたちが放課後など家庭で安心して過ごせない場合などにサポートも可能。



社会福祉法人 まどか会

熊本県阿蘇市一の宮町手野1030

お問い合わせ

Tel. 096-293-2131 (大津幼稚園)

ホームページ

<https://aso-madoka.jp/>



**開かれた保育所だからできる
地域一帯で子どもを守る取り組み**

「先日の講演会で、『大切に育てられてきた子どもたちは、将来、社会の役に立ちたいと思いつながりながら成長し、社会へ還元していく』というお話を聞いて、

まさに自分も同じ考えを抱いていました。おそらく多くの方は、『保育園や幼稚園で、学童保育や子ども食堂をするなんて大変だ』と思われるでしょう。何をやるにしても、やはり”人”が必要なんです。それは後からついてくる部分なんです。例えば、学童保育を利用していた子が高校生になって、ボランティアとして戻ってきて、子どもたちの見守りをしてくれることもあります。もちろん、そういうことを期待して活動しているわけではありませんが、私たちの取り組みはそういう広がりや可能性を持っていることは事実だと思えます」。

阿蘇市の子ども・子育て会議に参加している三村さんは、子どもが生きづらくなっている現代の社会に対し、子どものことを知らない大人が増えていくことも要因の一つだと話します。「地域に保育園や幼稚園があるだけでも、子どもとの関わりが持てますよね。今後、少子化でますます園の運営や法人の存続などが危惧される中、子どもたちと地域の高齢者との交流や、学童保育・子ども食堂のような自園のチャンネルを増やすことで、子どもの居場所づくりを創出するなど、地域の中で必要とされるアクションを起こしていくことが重要です。結果的にそのことが、少子化対策の糸口にもなるのではと思っています」。

よってできることの振り幅も大きい。そこで必要になるのが丁寧にしつかりと言葉を添えていくこと。就学前は、こんなふう丁寧な子どもたちを見ていくんだよということ初任者研修を通して感じてもらえるのはありがたい機会です。実際に保育園を卒園した子どもたちを、学童保育を通して見守り続けてきた三村さん。卒園後の子どもたちの健やかな成長を支え続けるためにも、学校現場の先生たちへ想いを繋ぎます。

”子どもまんなか”と呼ばれるずっと前から、地域の中で子どもたちのためにと小さなアクションをいくつも起こし、着実に積み重ねてきたまどか会。これまでの活動事例から、私たちがすぐにも取り組める子どもたちのための施策が、実は今いる地域にあることに気づかせてくれます。

域に保育園や幼稚園があるだけでも、子どもとの関わりが持てますよね。今後、少子化でますます園の運営や法人の存続などが危惧される中、子どもたちと地域の高齢者との交流や、学童保育・子ども食堂のような自園のチャンネルを増やすことで、子どもの居場所づくりを創出するなど、地域の中で必要とされるアクションを起こしていくことが重要です。結果的にそのことが、少子化対策の糸口にもなるのではと思っています」。

自動車共済MAP 福祉にかかわる皆様だけのお得な割引制度

(任意保険)

共済制度のメリット

- 非営利の共済制度
- 節約型のお得な掛金
- 早くて親切な事故処理
- 他保険会社等からの切替でも安心
 - ノンフリート等級(無事故割引等)、フリート優良割引などはそのまま引き継ぎます。

① 福祉車両割引 3%

● 消費税非課税措置の対象となる福祉車両の契約の場合。

③ 福祉施設割引 10%

● 社会福祉施設が所有・使用する自動車の契約の場合。

② 障害者割引 10%

● ご本人(記名被共済者)、配偶者、同居のご親族のどなたかが障害者の認定を受けているご家庭の契約の場合。

④ 福祉施設職員割引 5%

● 社会福祉施設に勤務する役員・従業員の契約の場合。



本部

熊本市中央区安政町3番13号(熊本県商工会館5F)
TEL:096-325-3411

お問い合わせ、お申込みは...

(社福) 熊本県社会福祉協議会
TEL:096-324-5454



市町村社協では、地域福祉活動を推進し、支援を必要とする住民のサポート等を行うためにさまざまな事業を実施しています。今回は、嘉島町で地域食堂を実施する一般社団法人との繋がりから、生活困窮者等世帯に対し相談や支援に取り組む嘉島町社会福祉協議会の活動を紹介します。

「今、目の前にいるこの人を救いたい
という思いが一緒なんですよね。
だから自然と、自分たちができるカタチで
連携できているのだと思います。」



(左から) 社会福祉法人 嘉島町社会福祉協議会 主任主事 村上 佑香さん
一般社団法人 ハンズハンズくまもと 代表 穴井 智子さん

コロナ禍で浮き彫りになった 子どもたちの実態

近年、熊本県内で高い人口増加率を記録している嘉島町。熊本市に隣接する立地や、企業誘致による雇用の増加など、住みやすさにも注目が高まっているエリアです。新しいファミリー層も多く流入し、15歳未満の子どもの割合も増えていきます。そのような中、平成28年の熊本地震以降、町内の小中学校においては、不登校児童・生徒数は増加傾向にあるといえます(「かしま議会」だより第43号)より抜粋)。さらには、コロナ禍による不登校児童・生徒の増加は全国的にも顕著です。

嘉島町社会福祉協議会(以下、町社協)の村上さんが社協で働き始めたのは、国内で新型コロナウイルス感染症が広まった令和2年でした。

(村上さん)「それまで社協として受ける生活困窮の相談というのは、月に1件あるかないかでした。コロナ禍以降は新規の相談が、月3件から多い時で10件(令和6年度は平均月5件)と一気に増えました。相談内容は多岐にわたりますが、子どもたちが抱える問題や困りごとが、コロナをきっかけに明るみに出てきたと思います。」

コロナによる長期の休校が終わっても、子ども自身も理由がわからずに登校できなくなってしまうというケースが嘉島町でも見られました。

(村上さん)「例えば、特性を持つ子どもたちは社会の中で生きづらさを感じたりして不登校になることがあります。コロナ禍で不登校となってしまう子どもは、もしかしたら大人数で過ごすのが

苦手だったり、繊細な子だったりするかもしれません。ただ、その時に何も支援を受けられず、不登校の状態が長くなると、外へ引き出すことが難しくなってしまいます。近年、中年層の方が引きこもりの状態にあるというご家族からの相談も増えていきますし、できるだけ早く当事者の方が若い時に関わることが大事だなと思っています。」

まずは顔を知ってもらうことで 相談のハードルを下げたい

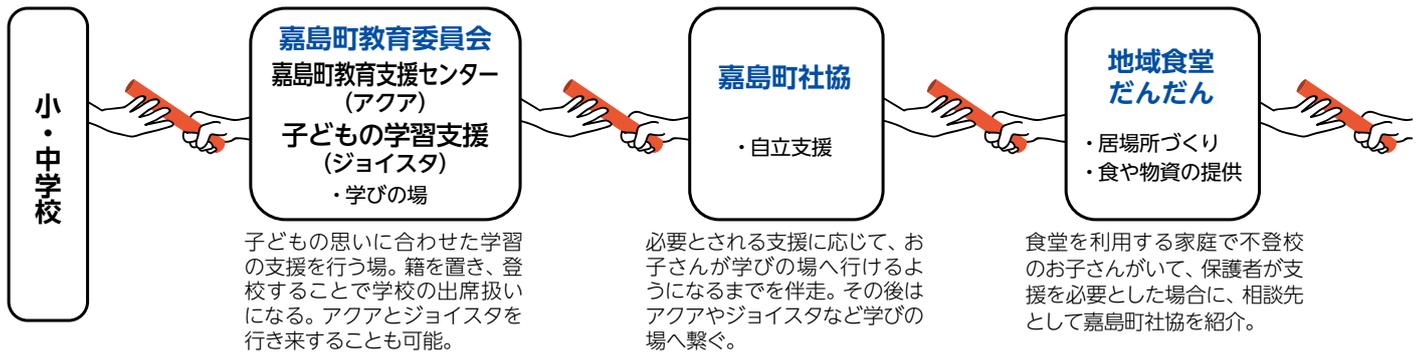
村上さんは現在の生活困窮者支援の担当となると、「困りごとや悩みを抱えたときに、ここ(町社協)だったら助けてもらえると思ってもらいたい」という思いから、さまざまな繋がりづくりを開拓していきました。そこでまず訪れたのが、一般社団法人ハンズハンズくまもとの代表 穴井さんがボランティアで取り組む「子ども・地域食堂 嘉島だんだん食堂」(以下、食堂)でした。当時、子どもをメインとして地域で地道な活動を続けていた団体は、珍しかったといえます。

(穴井さん)「村上さんとお会いするまで、社協はどちらかという子どももより高齢者福祉や熊本地震の被災者支援をされているイメージでした。社協のボランティア登録もし、助成金の情報をお知らせいただくなど、社協との繋がりを持たせたことはこちらとしても良かったですね。」

ハンズハンズくまもとでは、食堂の実施のほか、子どもたちへの居場所の提供や、高齢者を対象としたワークショップの開催など、地域の誰もが利

不登校児童への学習支援のイメージ

それぞれの強みを活かし、子どものステップに合わせてバトンを繋ぐようにゆるやかに連携。最終的に、小・中学校への登校を目指す一例。



実際に食堂を利用されていたご家族が、社協に繋がったケースは複数件に

➡ **関わる人が増えることで
子ども親も気持ちの負担が減る**

村上さんは普段の相談支援の際に、ひとり親世帯や子育て世帯の方へ、食堂のことをお知らせしています。
(村上さん)「初めての場所に一人で行くということはハードルが高いですね。ですので、『私は食堂に何時から行っているの来てくださいな』って待ち合わせのようにして、参加を促しています。」

用できる場作りに取り組んでいます。利用している子どもたちは、両親が共働き、ひとり親家庭、家庭に居場所がないなど、生活環境はさまざま。
(穴井さん)「何度か顔を合わせていると、少しずつお母さんたちも胸の内を話してくれる。中にはお子さんが不登校で悩まれている方もいらっしゃいます。村上さんが定期的に食堂へ来てくれることで、『この人は社協の人だけじゃね』とお母さんたちへ直接紹介できる。もちろんご家族の気持ちに寄り添ったうえで、必要な場合には、村上さんへ繋ぐなど、声を掛けさせてもらうこともあります。」
(村上さん)「仕事をしながらお子さんを養育している家庭では、社協へ相談するだけでなく、仕事を休むことはとてもハードルが高いと思うんです。私が食堂にお邪魔している時に穴井さんにご紹介いただくと、その場で少し話ができる。お母さんたちが、この人に相談していいんだって分かってもらえると、その後の相談にも来ていただきやすいと感じています。」



放課後や学校が長期休みの時などには、子どもたちが宿題をしたり遊んだり自由に過ごしている。

のぼります。
(穴井さん)「村上さんだったり、私たちがだったり、関わる人が増えたことで、お母さんの気持的にも少し明るくなられていると思います。例えば子育ての悩みに対して、これまでは一人で抱え込んでいたことを吐き出せたり、少しずつ解決したりすることで気持ちの前向きになられたのかなど。」
(村上さん)「穴井さんも私も、それぞれに役割があるんですよね。その中で共通していることが、『目の前の子どもたちやお母さんが、幸せに暮らせるように手伝っていききたい』ということ。その思いが共有できているから、自然とスムーズに連携ができるのだと思います。例えば、学習支援が必要な子どもがいれば、それを役割とする機関へ繋ぐなど、それぞれの強みを活かして関わっていくことが大事なんだと思います。」

当社は気軽に立ち寄れる不動産会社です。お気軽にご連絡ください。

- 不動産売買・不動産賃貸
- シェルター事業
…医療機関、福祉事業所等、多岐にわたる機関から入居の相談を受けています。また、住居を失った方の緊急救済としてシェルターを運営。
- 訪問看護
…精神科に特化した訪問看護です。24時間365日対応。
- お問合せ先

まつお不動産株式会社
熊本市北区龍田8丁目17-40

TEL: 096-245-7984
FAX: 096-245-7954



だんだん食堂 活動事例 (令和4年度)

●子ども食堂

第4月曜の晩ご飯に開催。コロナ禍以降は弁当の配布を行っていたが、現在は会食形式。事前の予約が必要で、子どもは無料で利用することができる。

▶実施回数15回、提供延べ食数1,332食(平均88.8食)

●居場所開放

毎週水・木曜に公民館を開放。様々な生活背景のある子どもたちが宿題をしたり、ボードゲームで遊んだりしている。不登校の子どもたちも、人が少ない時間などに自由に過ごす。

▶実施回数：19回、利用延べ人数255人(平均13.4人)

●ひとり親家庭世帯支援

家族全員が新型コロナやインフルエンザに罹患したひとり親家庭へ物資や弁当の配布を実施。子どもたちを対象に公民館での会食や、会食の前後にレクレーションなども行った。

▶弁当・物資配布回数：28回、提供延べ食数：1,907食、支援世帯数：1回10～50世帯

●学習支援

そろばんや習字等の学習のほか、不登校を経験した高校生が小中学生の学習の講師を務めるなど、子どもたちの学習支援を行った。1回100円で実施。

▶実施回数：約100回(週2回)、1回1～2時間、利用延べ人数：200人

●高齢者のワークショップ・カフェ

認知症の方や一人暮らしの方が楽しい時間を過ごせるよう企画。参加者は、会食なども楽しみに参加している。今後は、ハンドメイド作品の販売や多世代交流などを検討している。

▶実施回数：18回、利用延べ人数150人(平均8.3人)

●防災学習

補助金を活用し、講師を招いた防災講習会や防災パッククッキングなどを実施。今後も定期的に防災の研修を開催し、避難訓練の実施や防災についての意識を向上させていく。

▶令和4年度 実施回数：2回、参加者人数：1回目約30名、2回目約40名



誰もが参加できる食堂が 地域を繋ぎ、笑顔を繋げる

平成29年からスタートした「子ども・地域食堂 嘉島だんだん食堂」の活動。「熊本地震後の地域のコミュニティの復活を！」と取り組みを継続し、8年目を迎えました。

(穴井さん)「子ども食堂という形をとったのは、私自身がシングルで子ども3人を育ててきました。ずっと仕事ばかりをしていたので、ひとり親世帯の環境が分かるんですね。お母さんがお仕事の日は、お弁当を買って一人で晩ご飯を食べるというお子さんもいるんです。他の自治体で行われている子ども食堂は、土・日曜に開催されていることが多いですが、ここでは、働くシングルの方を応援したいという思いもあって、平日、月曜の晩ご飯として食堂を実施しています。」

令和元年11月には、嘉島町ひとり親家庭福祉協議会を発足するなど、さまざまなサポートに取り組んでいます。

食堂を始めた当初は、「どうしてあなたはそういうことをやるの？そんなに困っている子どもたちがおるとね？」と言われることが多かったそうです。

(穴井さん)「私自身、朝7時に家を出て帰宅するのが夜7、8時という生活をしてきたことや、子ども食堂は決して貧困の子どもたちだけが来るところではないということ。絶対的貧困と相対

的貧困についてもしっかりお伝えしました。その時話を聞いてくださった方たちは、今でもずっとボランティアとして関わってくれています。」

食堂では、子どもたちを対象とした取り組みだけでなく、高齢者向けのワークショップなども開催しています。

(村上さん)「以前、穴井さんへ相談して、社協が関わっていた高齢者の方に食堂を紹介したことがあります。一人暮らしをしている高齢者の方にとって、少しでも助けを求められる場所が増えるといいなと思って。ただ、ご本人はすぐ遠慮されるので、一緒に食堂へ行って、穴井さんと会ってもらって。」

(穴井さん)「顔が分かると、私も関わりやすいですね。食堂まで来ていただくのも大変だと思い、お弁当を自宅まで届けることもしていました。」

社協との繋がりがきっかけでしたが、隣町で農業を営む親族が育てたみかんを食堂へ届ける寄付者にもなり、病気で亡くなるまで、寄付をされていたそうです。様々な境遇や思いを持つ人が集まる「食堂」は、子どもも子育て世代も高齢者も、地域の皆が安心して過ごせる場所になっています。

連携先を多く持つことは 当事者も支援者も救う

各市町村の社協では、どこも限られた人員の中で相談者の支援にあたっていることが多い状況です。



上益城圏域での支援調整会議の様子。嘉島町、益城町、甲佐町、御船町、山都町、美里町の社協や役場の担当課のほか、福祉事務所、ハローワーク、グリーンコープ、子どもの学習支援を行う松本学園など、関係団体が集まる。

（村上さん）「当事者にとって、相談できる人や場所が社協だけでなく、他にもいくつかあった方がいいと思うんです。どうしても相談者と支援者の相性がありますから。それと、支援する側も誠心誠意対応していると、自分が押し潰されてしまいそうになることがあります。自分自身を助けるという意味でも、連携先を多く持つておくことはとても大事だと思っています。」

その言葉通り、村上さんは、穴井さんをはじめとする様々な連携先と繋がり、「仲間はたくさんいますよ」とほほ笑みます。

嘉島町が属する上益城郡では、嘉島町、益城町、甲佐町、御船町、山都町、そして下益城郡美里町、それぞれの社

村上さんは相談者と繋がりを続けるために定期的に食堂を訪れています。

（村上さん）「支援が終了すると、その後繋がりが続けることは難しいんです。でも、その方が穴井さんの食堂へ出入りされていると、私も定期的に会うことができる。その時に『元気になっている？』といった何気ない会話の中で、実はこんなことで困っているというSOSが聞けたら、早期の支援が可能になるんです。」

（穴井さん）「私では難しいと思うことを、村上さんへ繋いだからといって終わりではないですね。対象者のその後の経過を見ながら、必要な時に支援ができるように村上さんと相互に連携し

👉 **繋がりを続けるために必要な一方向ではない相互の連携**

協が集まって、上益城圏域での連絡会議を行なっていることも、村上さんにとって心強いこと。

（村上さん）「同じ事業を担当しているのでも、すごく相談に乗ってもらっていません。最初の頃はよく、『支援する側の思いではなく、本人さんは何を望んでいるの？』と言われていたのですが、それは今でも支援をするうえで大事にしていることです。そのためにも、制度のことなどすぐに尋ねられるネットワークがあることはありがたいですし、同じ思いを持っていて関係者同士、支え合っていきたいです。」



お問い合わせ

社会福祉法人
嘉島町社会福祉協議会

熊本県上益城郡嘉島町上島551
Tel.096-237-2981

ホームページ
<http://kashima-shakyo.or.jp/>



ているイメージです。ただ、食堂は決して支援に繋ぐためにやっているのではありません。食堂は誰でも来ていただける皆の場所なので、目的は間違えないようにしています。」

食堂を通して、その人にとって必要な支援やサポートが届く。それにより、繋がった人たちの暮らしが幸せになっていく。穴井さんと村上さんのゆるやかな繋がりが、一人、また一人と笑顔にしていきます。

NITORI BUSINESS

ニトリの法人様向け事業

福岡 ショールーム

【TEL:092-643-6336】

ニトリゆめタウン博多店3F
福岡県福岡市博多区千代6丁目2-23

施設向け家具も「お、ねだん以上。」

お見積りいたします。お近くのショールームまでご連絡ください。



お見積り無料

施設全体のコーディネート提案も承ります

ニトリ ビジネス

検索



ニトリの法人事業ホームページに納品事例が多数ございます。

ご加入のおすすめ!

県社協のおトクな制度に加入しませんか?

県社協会員制度

職員の育成のため、研修会に参加させたいけど、経費はできるだけ抑えたい…。



例えば…

年に 10回 研修会に参加/会費年額 12,000円 の例

非会員：経費合計 180,000円

会員：経費合計 132,000円

※会費12,000円含む



年間 **4.8万円おトク**

研修内容はこちら▶



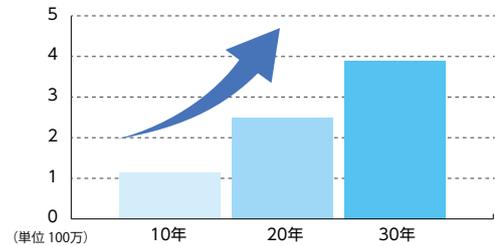
お問合せ | 熊本県社会福祉協議会

福祉人材・研修センター ☎096-322-8077

熊本県民間社会福祉事業従事者退職共済制度

社会福祉法人向け

積立額に運用益が加算される共済制度!



例えば…

基本給平均 200,000円 30年勤務 の例

掛金総額 3,096,000円 (事業主と加入者で折半) が

退職給付額

390万円に!

制度内容はこちら▶



お問合せ | 熊本県社会福祉協議会

総務部 総務企画課 ☎096-324-5454

県社協への寄附御礼

社会福祉事業推進のためにと、多額のご寄附をいただきました。

ここに深く感謝申し上げます。

ご芳志に沿うよう、今後とも社会福祉事業の推進に努めて参ります。

受付(令和6年2月1日~令和6年9月30日)※順不同

- 明治安田生命保険相互会社 熊本支社 様
- 一般社団法人 熊本県庁友会 様
- 株式会社 テレビ熊本 様
- 東京エレクトロン九州株式会社 様
- 株式会社 熊本計算センター 様
- 株式会社 勉強堂 プーラビーダ イオンタウン 西熊本店 様

寄附のお願い

熊本県社会福祉協議会では、地域福祉の推進に必要な財源として、本会の活動・事業に賛同し応援して下さる全国の皆様や企業・団体様からの寄附金を受け付けております。

ご寄附いただきました浄財は、本会が実施する事業や県内の福祉団体、ボランティア団体等への支援に活用させていただきます。

この機会に、社会貢献としてご一考くだされば幸いです。

デジタルの力でイノベーションを創造する

このようなお悩みありませんか?

- 自社のビジネスにITを活用したい
- IT導入を推進したい
- ITで業務効率化を図りたい
- IT導入検討の相談相手が欲しい
- 現場データを活用したい

全てはおお客様の事業の成功のために

IT戦略パートナー

DX 推進支援

IT 導入支援

業務効率化

そんなお悩みを九州ソフトスが解決します。

ホームページ



株式会社 九州ソフトス

TEL 096-312-4410

E-mail innovation@kyushu-softas.co.jp

お問い合わせ

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



新型コロナウイルス感染症の感染症法上の分類が5類感染症に変更されたことに伴い、「特定感染症重点プラン」を廃止して2つのプランとします。

保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円		
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)		
	入院保険金日額	6,500円		
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額	4,000円		
	特定感染症	補償開始日から補償(*)		
地震・噴火・津波による死傷	×	○		
賠償責任の補償	賠償責任保険金 (対人・対物共通)	5億円(限度額)		
年間保険料		350円	500円	

商品パンフレットは
こちらから



(ふくしの保険
ホームページ)

*特定感染症についても10日間の免責期間がなくなり、補償開始日から補償対象となります。
なお、令和5年5月8日以降、新型コロナウイルス感染症は補償対象外となりました。

<重要>

- ◆ 基本プランでは地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。
- ◆ 年度途中でご加入される場合も上記の保険料となります。
- ◆ 中途脱退による保険料の返金はありません。
- ◆ 途中でボランティアの入替や、ご加入プランの変更はできません。
- ◆ ご加入は、お1人につきいずれかのプラン1口のみとなります。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 **社会福祉法人 全国社会福祉協議会**

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課
〈保険会社〉

TEL:03(3349)5137

受付時間：平日の9:00~17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667

受付時間：平日の9:30~17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

ソウェルクラブ

(福利厚生センター)ご加入のおすすめ

新規会員 募集中!

会員数 約270,000人/

職員の健康管理のために

- 生活習慣病予防健診費用助成
- 健康生活用品給付
- スポーツクラブ ●電話健康相談

職員の余暇活用のために

- 指定保養所…休暇村、KKR、グリーンピア、ダイワロイヤルホテルズ
- 会員制リゾート施設…ラフォーレ倶楽部 セラヴィリゾート泉郷
- クラブ・サークル活動助成
- テーマパーク ●国内・海外旅行
- レンタカー ●カルチャースクール等

職員の生活サポートのために

- 住宅ローン ●特別資金ローン
- ソウェル団体生命保険・傷害保険
- 小売店、引越サービス、文具・消耗品、書籍等

職員の慶事のお祝い

- 結婚お祝い品贈呈 ●出産お祝い品贈呈
- 入学お祝い品贈呈
- 永年勤続記念品贈呈
- 長期勤続者退職慰労記念品贈呈

各種情報提供

- 会員情報誌 ●ホームページ

地域に密着した事業

- 会員交流事業(旅行・観劇・スポーツ大会等)
- 地域開発メニュー

職員の資質向上のために

- 資格取得記念品贈呈 ●接遇講習会
- 広報講習会
- レク・リーダー養成講習会
- メンタルヘルス講習会
- OJTスキルアップ講習会
- Disneyアカデミー
- コンプライアンス講習
- e-ラーニング
- 〔 Excel、Word、PowerPoint、コンプライアンス、メンタルヘルス 〕

職員の万が一の際に

- 会員の死亡弔慰金
- 会員の配偶者の死亡弔慰金
- 会員の入院・手術見舞金
- 災害見舞金

国内外20万件以上の施設やサービスを会員価格で利用できる

ソウェルクラブ“クラブオフ”

加入要件

- ・契約対象者…社会福祉事業又は介護保険事業(※)を営業者
- ・加入対象事業…社会福祉事業又は介護保険事業(※)
- ・加入対象者…上記事業に従事する役員全員(非常勤職員含む)

※対象事業の詳細についてはお問い合わせください。

掛金

- ・第1種会員(常勤職員向け) …… 毎年度1万円
- ・第2種会員(非常勤職員向け) … 毎年度5千円

※非常勤職員が第1種に入会することもできます。

※第2種会員は、利用できるサービスが一部限定されます。

加入申し込み、お問い合わせは、**TEL 0120-292-711**
フリーダイヤル **FAX 0120-292-722**
<https://www.sowel.or.jp/>
社会福祉法人 福利厚生センター
〒101-0052 東京都千代田区神田小川町1-3-1
NBF小川町ビルディング



経営相談 をご活用ください

相談は無料です

毎月1回(定例日)、専門の相談員が社会福祉法人や社会福祉施設からの経営相談に応じています。また、緊急な場合は、電話やメールでの迅速な対応も可能です。ぜひご活用ください。

来所相談日 (※予約が必要です)

- 社会保険労務士 第1月曜日 午後1時30分～
- 公認会計士 第2火曜日 午後1時～
- 弁護士 第3木曜日 午後1時～

お問い合わせ | 社会福祉法人経営相談室
TEL 096-324-5465 (直通)
FAX 096-355-5440

地域福祉権利擁護事業で、暮らしの安心をお手伝い

ご利用できる方

認知症・知的障がい・精神障がいなどにより、判断能力が低下しておられる方で、日常生活に不安のある方などです。

サービスの主な内容

- 福祉サービスが安心して利用できるようにお手伝いします
- 毎日の暮らしに欠かせないお金の出し入れをお手伝いします。
- 大切な通帳・印かん・証書などを、安全な場所でお預かりします。

利用料

1回1時間あたり1,200円程度です。(お住まいの市町村によって異なります)

お問い合わせ | 地域福祉権利擁護センター
TEL 096-324-5474 (直通)
※またはお住まいの市町村社会福祉協議会まで

福祉サービスに関する苦情など お気軽にご相談ください。

福祉サービスに関する苦情や相談は、事業所内にある苦情受付窓口で受け付けています。しかし、解決できなかったり、直接、言いにくい場合は、「熊本県運営適正化委員会」へお気軽にご相談ください。利用者本人や家族、代理の方でも相談できます。

相談は無料です・秘密は守ります 午前9時～午後5時まで(土・日・祝日は除く)

お問い合わせ | 熊本県運営適正化委員会
TEL 096-324-5471 (専用)
FAX 096-355-5440

社会を支える福祉の仕事のお手伝い



福祉人材 無料職業紹介所

社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会
熊本県福祉人材・研修センター TEL 096-322-8077
〒860-0842 熊本市中央区南千反畑町3-7 熊本県総合福祉センター4階 開所時間 平日9時～17時

ふれあいネットワーク